

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

【対象者別】子育て世代【概要】

日時：令和4年11月19日（土）

10時30分～11時10分

場所：子ども未来センター

くるりん子育てひろば

1 開会の挨拶

（市長）

皆さんこんにちは。市長の清水でございます。本日は、子育て世代の皆様と語らう機会をいただきまして誠にありがとうございます。市では、これからの未来を担う子どもたち、そして、子育てを担う保護者の皆様への支援は市政運営の中心課題の一つとして取組を進めているところでございます。中でも、これまで取組を進めてきた保育園の待機児童につきましても、おかげさまで、ほぼ解消することができました。また、たちかわ版・出産応援育児パッケージとして、出産世帯にSuica 2万円を配付するほか、医療費の助成費については、令和5年4月1日より、中学3年生から高校生年代まで拡大をいたします。その他、保育園での使用済み紙おむつの持ち帰りの負担をなくしたほか、保育所の給食費につきましても、独自財源を充てて保護者のご負担を軽減するなど、積極的に子育て支援に取り組んでおります。本日は、私のほかに子ども家庭部の担当者もおりますので、皆様が普段困っていることや市に取り組んでもらいたいことなど、忌憚のないご意見をいただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

2 意見交換

（参加者）

よろしく申し上げます。伺いたいのは児童給付金のことでして、昔、子どもが産まれると所得控除があつて、子育てはお金がかかるので、所得の税金は控除されたと思うんですけども、児童給付金があつたので、所得控除がなくなっていると思っております。ただ、児童給付金は所得制限があつて、一定の所得を超えともらえなくなってしまう。なので、頑張って働くと昔よりもむしろ負担が増えていると。子ども1人だとまだいいんですけども、2人、3人、これから子どもを産んでいこうと思うと、やっぱり給付金はぜひ欲しいというのが正直なところなので、子どもの数に応じた所得控除というところをもう1回考えていただけたら、給付金の所得制限も、子どもの数に応じてもっと幅があるみたいな、そういう子育てにかかるお金の実態に合わせた制度に、ぜひ変えていきたいと思っているんですけども、すみません、とりとめのない話で申し訳ないんですが、子どもの数、2人目、3人目を目指しやすい環境にしていきたいために、これからどうしたほうがいいのかというところを、ぜひご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

（子育て推進課長）

恐らく児童手当のことと、あとは税金上の所得控除のお話かと思えます。確かに以前は児童手当にプラスして税金の所得控除がありました。子ども手当が導入されたときと同時だったと思いますが、所得控除がなくなり、手当を充実させるという流れになっています。

ただ、いずれにしても、まず国の制度であることが大前提でして、市として、今、何かできることは、ちょっと思いつかないですが、今後、子どもに関する手当のあり方というのは、恐らく国のほうでも充実させるべきという考えを持っている、そういった議論もありますので、今後、いろいろな形で、子どもを育てるのは、誰がどう負担をしていくべきかという議論が、これからまたなされていくものかと考えます。市として、じゃあ、すぐ税金の控除をしますというのは、なかなか税法の中で難しいのかなと思っていますので、今後、そういった議論が深まることを我々も期待しているところです。

(参加者)

ありがとうございます。

(参加者)

私、去年に大田区から転居してきました、今、5歳と2歳の子どもがいるんですけども、幼稚園を移るに当たって、前との比較になってしまうんですけども、大田区ですと、入園に当たって補助金というか、11万円出ていて、隣の品川区でも同じぐらい出ていて、そういった幼稚園というところと、あとは医療費、正確には覚えていないんですけども、大田区ですと、中学校卒業だったか高校卒業だったか忘れたんですが、そこまで医療費が無料だったというようないところがありまして、立川はたしか小学校からお金がかかるようになったかなと理解しているんですけども、そういったところ、東京都内、どうしても23区と比べちゃうと格差を感じるなどというのは、やむを得ないところはあると思うんですけども、そこら辺、少しずつでもよくなっていったらいいなと思っているというところなんです。2点、お答えいただければと思います。

(保育課長)

ご意見ありがとうございます。幼稚園の補助金などは、区市町村によっていろいろと独自の取組はあろうかと思っています。立川市においては月に5,300円の園児への補助を行うなど、違う形での支援ということではできるだけ取り組んでいるところだと考えておりますけれども、他の区市町村の事業の中で、利用者の方がこれはいいなというようなこと、ご意見たくさんお聞きをして、取り入れられるところは、対応できないか引き続き検討させていただきます。どうもご意見ありがとうございます。

(子育て推進課長)

私のほうから、医療費の自己負担等々についてのご質問に対してお答えさせていただきます。確かにご指摘いただいたとおり、現状は、小学校に入る前は自己負担が全くかからず、さらに所得制限もないような形で補助を運営しているところです。一方、小学校以上となると、200円の自己負担及び所得制限がかかるような形になっていますが、先ほど市長からのご挨拶にありましたように、来年4月から高校生までの医療費助成制度を開始します。それについては、来年度予算に向け、所得制限と自己負担の部分を撤廃する方向で、今、検討をしているところです。それを実現すべく、来年度の医療証の切替えの時期、10月から無料になるように、今、検討を進めている状況ですので、少し23区との差が埋まるかなと考えているところです。

(参加者)

よろしくお願ひします。ちょっとした希望になっちゃうんですが、今、私、育休で休んでいまして、保育園を希望してまして、高松町の高松保育園を希望しているんですが、やはり入園がかなり厳しいというのが、何回か市役所のほうにも行かせていただいて分か

っているんですが、これから収容人数というか、ゼロ歳、1歳、2歳の人数の枠が増えるということは、見込みとか、今後の検討としてあるのかお聞かせいただきたいのですが、よろしくをお願いします。

(保育課長)

保育園の入園についてのご意見でございます。待機児童の件につきましては、冒頭市長からもお話をさせていただいたとおり、市全体として見れば、これは全国共通の傾向かと思えますけれども、一旦、数字としては低い水準になりまして、ほぼ解決というような状況にはなってございます。ただ、本市の中でも地域によって偏りがありまして、定員に空きが多いところや待機児童が多い地域があり、まだ均一にそろってはいないような状況でございまして、今、市内の中での適正な定員の分配といえますか、配置については、これから何らかの取組をしていきたいとは考えてございます。ただ、なかなか新たな施設の建設は、今後、少し難しいという中では、利用定員の変更ですとか、あとは民間の保育園で職員が確保できれば、弾力的な運営といったところは、できるかぎり相談して対応できないか検討しているところですので、引き続き、皆様に保育園、希望どおりのところにできるだけ入園していただけるように取り組んでいきたいと考えております。よろしくお願いたします。

(参加者)

どうもありがとうございます。よろしくお願いたします。

(参加者)

度々すみません。政策とかとは全然関係ない話になっちゃうんですけれども、昨年、大田区から転居してきたというときに、障害福祉課のほうで手続をすることがあったんですけれども、転入前に1回市役所に出向きまして、必要書類等々を聞いたんですが、そのときは何もないというふうなことを言われて、改めて転入してきてから本当の手続をしたときに、この書類を取ってきてくださいとか、そういうふう言われて、私の妻の話なんですけれども、子どもを抱えて往復するのが非常に大変だったものですから、そこですごい手間を取らされたということで、今、本人いないですけれども、非常に怒っていてということがありましたので、基本姿勢みたいのところになるんですけれども、こういう手続、いろいろ本当に種類があって大変だとは思いますが、こういう手続をするにはこういう書類が必要であるというようリストであるとか、そういうものを渡していただくとかという形を取って、なるべく手続をスムーズにしていきたいと思えます。それは、私たちにとっても一回一回の手間が少なくなりますし、市役所の方々にとっても1回で手続が終わるということにもなりますので、今後はその改善をお願いしたいと思っております。よろしくお願いたします。

(総合政策部長)

転居の際はいろいろとご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。市の職員にも我々いつも言っていることなんですけれども、やはり申請に来られる、窓口に来られる方の立場になって、しっかりと対応していかなくちゃいけないというところ、それから、きちっと何が必要か、二度手間になる、そういったことでたくさんクレームをいただいているところがありますけれども、そういったことを一つ一つ改善をしていかなくちゃいけないと、市長もそのところは厳しく指示をしておりますので、今の声は障害福祉課にしっかりと伝えさせていただきます。これからは、窓口に出向いて何回も手続をするというところは

改善をしていき、国もデジタル庁ができていますので、インターネットを使いながら、皆さんにご足労をかけないような形で簡単に手続きができるような窓口を、早急に進めていきたいと思っていますので、今の声をしっかりと受け止めながらやっていきたいと思っています。本当に申し訳ございませんでした。

(参加者)

お願いしたいことになるんですけども、保育園のデジタル化についてです。いろいろな保育園を見学させていただいているんですけども、結構、各保育園でかなり差が正直あるという状況で、アナログなところは本当に20年前、30年前と同じ紙ベース、電話ベースの処理になっています。もちろん各社の企業努力でもあるんですけども、ある程度市のほうでテンプレートじゃないですが、こういった連絡サービスというものはぜひ活用してくださいみたいな、そういうプラットフォームですとかテンプレートを提供していただいて、あまり詳しくないとか、資金に余裕がないところもそういったデジタル化を進められるようなサポートをしていただけたらいいかなと思います。どこの保育園も要件は同じだと思うので、使い回しが利くような仕組みだと思いますので、各保育園に任せっきりじゃなくて、市のほうで一括してデジタル化を支援していくような取組をぜひしていただきたいと考えております。

(保育課長)

ご意見ありがとうございます。保育園現場のデジタル化についてです。少し前に民間保育園については、一旦、一通り対応したところですが、取組については各園で行っていました。お恥ずかしながら、公立保育園については、実は今年度から導入をいたしまして、園児の登降園の管理や連絡機能、その他お知らせの配信等々、デジタルでできるようになったところなんです。公立の保育園の取組も進んでいなかったの、なかなか民間園に対する指導も難しい部分がありましたが、今後は公立園で実際にやってみた実績等々の状況も踏まえて、アドバイスであったり指導であったりということ、よりできるようになるのかなと考えております。ちなみに、こういった機能があるといいなとか、何か具体的にありますか。

(参加者)

保育園に申し込むための各書類とかも、ある程度デジタルで、紙の数が多いので、それもデジタルで申し込めるとありがたいですし、登園と欠席の連絡もスマホのアプリとかからできたりするとありがたい。ちょっと思いつくのはそれぐらいなんですけれども。

(保育課長)

分かりました。電子申請については、まだ始まっていないところではありますが、今後、恐らくそういった、保育園申請だけではなくて、役所全体がそういった方向に進んでいく中では、同じように足並みをそろえて進めていく分野かとは考えてございます。連絡機能などは、保育園の事務システムのほぼ標準的な機能だと思いますので、うまく活用できていないだけというところには、できるだけ活用を促してやると、そういったところは努めてまいりたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

(参加者)

ありがとうございます。よろしくお願ひします。質問内容ですが、立川の第4次長期総合計画を見ますと、立川市内で赤ちゃんが産まれる出生数の人数が、現状、平成30年度で1,400人台であります。目標とされている令和6年度では1,345人という形で目標を掲げら

れているんですが、こういった政策を実施して、1,345人の目標を達成していくのかということをお教えしてほしいです。よろしくお願いいたします。

(総合政策部長)

これから避けられないところは、少子高齢化、人口がどうしても減っていく中で、お子さんの出生数を、どのような形で1,345人というところを目指していくのか。それは、今、担当がいろいろとお話をさせていただいているように、やはり子育ての支援をしっかりとしていこうと、子どもを産み育てやすい立川市というところをしっかりと皆さんにアピールをして、立川で安心して子育てができる、そういったまちにしていければと思っています。そのために、医療費の助成、幼稚園や保育園、そういったところのご負担もこれからなくしていきたいと思っていますので、1,300という数字、今はコロナでもっと下がってきてしまっていますが、しっかりと市長を先頭にアピールしながら、皆さんに安心して住んでいただけるまちにしていきたいと思っています。ありがとうございます。

(参加者)

ありがとうございます。すみません、もう一つ。先ほどの大田区から転居されてきた方がおっしゃっていましたが、立川市内に転居された方に対して、必要な書類一覧表みたいなものというのは現在あるのでしょうか。いきなり質問してもあれかと思うんですけども。

(総合政策部長)

転入されたときに、こういった書類が必要ですよという一覧表は、おそらく、私も明確にそれを存じ上げていませんが、あると思います。すみません。

(参加者)

いえいえ、全然大丈夫です。そうですね。それがあれば、それがあって、先ほど言われていた大田区の方とか、立川市内に転居された方に、転居された方の一覧表、それはインターネットでもいいと思いますが、18歳以上から生きていらっしゃる全ての世代の方、個別具体的に必要なのが異なると思うんですけども、そこら辺を統括できたら、さらにいいんだろうなと思いました。ありがとうございます。

(総合政策部長)

ありがとうございます。

(参加者)

すみません、度々。市長と語る会、私は4年連続ぐらいつと参加をしまして、これからも開催していただけると非常に市民にとってうれしいと思っているんですが、要望としては、来年度以降もお願いしたいと思っております、来年、立川の市長選挙があります。そこで次の市長選の結果等によって、来年からこういう市長と語る会がなくなってしまうと、やっぱり市民としては残念なので、いずれにせよ、今年で市長と語る会、私、数えたら全部で7回あったと思うんですが、市長と語る会というのは、来年度以降も継続して実施をしていただけるとうれしいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(市長)

今、開催を促していただいたような内容のご発言でございましたけれども、私は今、77歳で、体が続くかどうかということも大きな問題でありますし、これは1人だけで決めるというわけにはまいりません。いずれにしましても、そのようなお声をいただいたということは、市民の皆さんのお声を行政に反映できている結果であろうかなという思いを今い

ただいたところでございます。私ではなくても有能な方はいらっしゃいますので、私からバトンタッチをしたとしても、立川の行政は26市の中のトップクラスとっておりますので、それを続けていきたいと考えているところでございます。ありがとうございました。

(参加者)

お礼とご質問なんですけれども、まず、お礼としては去年、2021年に子どもを産んだんですけれども、コロナ禍だったんですが、結構、児童館とかをずっと開けていただいたりとか、一時保育もクローズせずにはいただいていたおかげで、結構、生活がしやすかったというところがありまして、その点は、ほかの近隣とか、違う区の方のお話を聞くと、そうではないところも多かったみたいなので、割と立川はその点では暮らしやすいんだなというのが分かって、その点はありがとうございます。ご質問としては、答えがわからないんですけれども、錦町に今、新しいマンション、100戸規模のものが二、三軒、建とうとしているかと思うんですが、割と立川が子育てを誘致している印象もあるので、子育て世代が入ってくるのかなと思っているんですけれども、保育園の数が増えるのかとか、予定があるのかみたいな、マンションとともに検討されているかななどをお伺いしたくて。今、保育園に入れているんですけれども、第2子が同じ保育園に入れられないんじゃないかなとちょっと思ったりとかもしているんで、その辺、お伺いできればと思います。

(保育課長)

保育園の新設というところについては、今のところ具体的な予定はございません。ただ、そういった大規模の開発がある場合には、事前に開発事業者と協議をする手続になっておりまして、市からはマンション内に認可外の保育施設を併設できないかといった要請はしているというような状況になります。ただ、それが具体的に、世帯数に見合ったものが整備されるかとか、その辺りまではなかなか市としては交渉ができる部分ではないんですけれども、市の立場でできる要請についてはさせていただいているというような状況でございます。

3 閉会の挨拶

(市長)

皆さんありがとうございました。大勢の方々からのご意見をいただいたということで大変うれしく思っておりますし、皆さんからのお話が職員に届いて、職員が勉強させていただいて、そして、子育て行政をもっともっと立派なものに仕上げたいと思っているところでございます。また、今後も何かありましたら、郵便でも何でも結構でございます。教えていただければありがたいと思っております。今後どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。